つくばエクスプレス土浦延伸の考察と展望

鷹好きの阿見町民

0、背景

今から書くこの部誌は私が中2の時に探求学習で行ったものをもとにさらに詳しく具体的にリニューアルさせたものである。

1、延伸先の決定

2023年（令和5年）6月23日、茨城県がつくばエクスプレス（TX）を土浦方面に延伸することを決定した。なぜ土浦に決定したのか、その理由に迫ろう。まず、当初TX延伸の候補地として主に挙げられていた「筑波山方面」「茨城空港・石岡方面」「下館方面」「土浦方面」の4つのメリット、デメリットを比較してみた。



・筑波山方面：
観光振興としてのロマンあり。しかし夜間やオフシーズンの需要が乏しく、急勾配への対応や建設コストに見合う収益が見込めない。

・茨城空港・石岡方面：
石岡駅経由で茨城空港へ向かうルートのため、空港アクセスとしては最短。だが、常磐線との接続という点では土浦に劣る。

・下館方面：
水戸線との接続で県西部とのつながりが強化される。しかし既存の関東鉄道常総線
と役割が重複してしまう。

・土浦方面：
常磐線との接続が可能。※下記にメリットをたくさん書いたよ

このようにメリット、デメリットを挙げてみると土浦以外の3つはデメリットが大きいことがわかる。また土浦に決定した最大の理由は、やはり「常磐線と**TX**を繋げることができる」点だろう。東京とつくばを最速45分で繋ぐTXと茨城県を南北に貫く常磐線が接続されることで、県内の移動の利便性は遥かに向上するだろう。そして、この後に詳しく記載するが土浦にすることで将来的な茨城空港に接続ができるというのも大きな点だろう。

2、TX土浦延伸がもたらす多大な利点

土浦延伸は単なる延長ではなく地域社会や交通網に大きな変化をもたらす。その主な利点を以下に整理する。

①公共交通ネットワークの強靭化

現在、土浦・水戸方面から都心に向かうルートはJR常磐線に依存している。TXが土浦に接続されることで、常磐線が運転を見合わせても、TXという強力な代替輸送手段が確保される。逆も然りだ。これは地元住民にとって大きな安心材料になるだろう。

②移動時間の短縮と利便性の向上

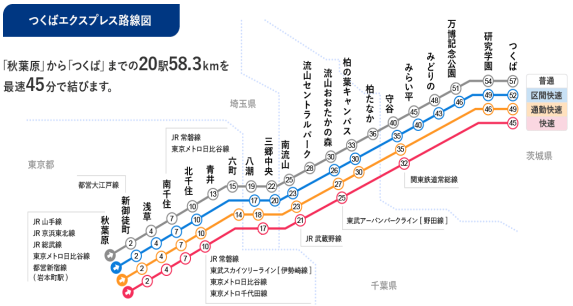
つくば～土浦間が約10分程度で結ばれることで、両市間の通勤通学等の利便性が飛躍的に高まる。また、土浦とつくばや東京が近くなるため、つくば市民やつくばに住もうと検討している人たちも土浦住みという選択肢もできるだろう。何より水戸や土浦から東京に出る際の交通手段の選択肢は格段と広がる。

③経済活性化と交流人口の拡大

後述のイオンモール土浦駅（仮）など、土浦の駅周辺を中心とした開発や商業利用が促進される。また、常磐線よりももっと早く土浦まで行くことができるため、土浦のレジャー施設や霞ヶ浦観光など新たな観光需要の創出も見込まれる。

3、具体的ルート提案と中継駅

ここでは、TXが土浦に延伸することが決まった今、
つくば土浦間の約12kmを単なる「移動」ではなく
「地域活性化」の軸とするためのルートを提案する。
TXの秋葉原ーつくば間の距離と駅数から土浦
つくば間の途中駅は2～3個が適切であると考えた。

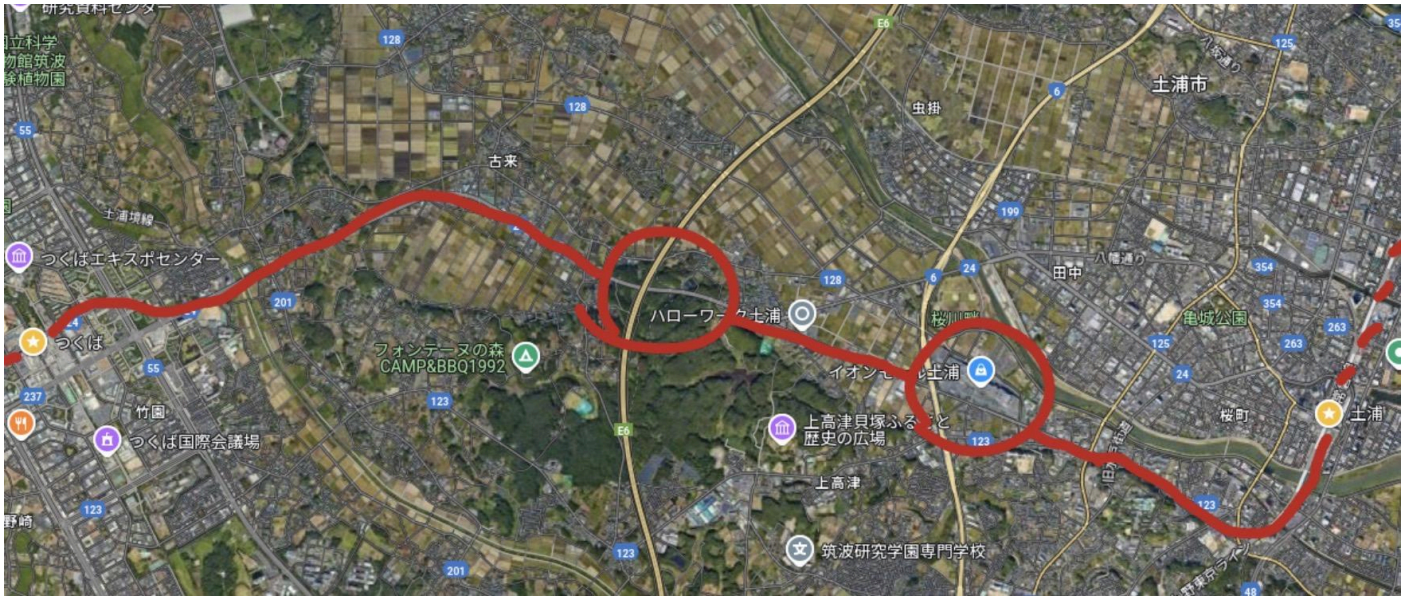


中継駅①：土浦スマートIC駅（仮）

常磐道と県道24号線が交差する所。茨城県はここに土浦スマートICの設置を検討しているという。パークアイランドの拠点として、高速道路を利用する県外客や周辺住民の足としての機能を果たす。既存の交通インフラとの結節を重視したものである。

中継駅②：イオンモール土浦駅（仮）

土浦市最大の集客施設であるイオンモール土浦とTXを接続させたものである。現在は土浦駅からのアクセスとしてはバス利用が主だが、鉄道駅が直結することで、つくば市側からの買い物客流入も多少は期待できる。



4、茨城空港の重要性と首都圏防衛

はじめの候補地ごとのメリットで話した茨城空港の重要性を解いていく。これは私の中2の時の探究で聞くことができたTX延伸の第一人者である塚本一也先生のお話である。先生が強調されたのは、単なる利便性ではなく「茨城空港の戦略的意義」である。

【塚本先生の提言：首都圏第三空港としての役割】

現在、首都圏の空の玄関口は羽田・成田の2つに依存している。しかし、災害やテロなどの有事の際にこの2つが機能不全に陥れば、日本の物流と移動は完全に麻痺してしまう。比較的土地に余裕があり、首都圏に近い茨城空港を有効活用することは、国家的なリスク管理として極めて重要だ。TX土浦延伸はその第一歩であり、最終的に空港まで繋げることで茨城県全体の価値を底上げする。

このようにTX延伸は単なる延長ではなく、日本のインフラを支えるバックアップラインとしての側面をも担うことができるのだ。これより、この延伸計画は茨城空港にも繋がるように組み立てていく。

5、土浦駅におけるJR接続

延伸の成否を分けるのは、土浦駅での「乗り換え」のしやすさであろう。ここで、利便性を極限まで高めた乗り換え方法を提案する。

―乗り換え改札（ラッチ内接続）―

1 シームレスな接続による心理的距離の短縮

TXと常磐線を改札内（ラッチ内）で接続することの最大のメリットは、乗り換えの心理的な壁を最小限に抑えることである。通常、一度改札を出て公道や自由通路を経由する「ラッチ外乗り換え」では、信号待ちや天候等にも左右される場合もあり再入場の手間も発生するが、ラッチ内接続を実現することで一つの大き

な駅構内として機能させることができる。これにより、都心からTXでつくば土浦を経由し、常磐線特急のひたちときわで水戸いわき方面へ向かうという、新しい広域ネットワークが生まれる。

2 具体的な提案

・乗り換え改札の設置

JRとTXの間に運賃計算を分離するための乗り換え専用改札を設置する。これにより交通系ICカード（Suica/PASMO等）をタッチするだけでスムーズに会社間を跨ぐことが可能になる。

・運行情報の共有システム

改札内接続をより有効に機能させるため、お互いのホームなどに相手側の運行情報や次発案内を掲示する。これで、TXが遅延した際に常磐線特急を待機させるなど、会社間の協力体制がより近く感じやすくなる。

ー土浦駅立体イメージ（妄想）ー

3F（TXホーム階）：TX車両の発着

2F（改札階）：現在JR改札がある階。ここに乗り換え改札を設置。

1F（JRホーム階）常磐線のホーム

6、あとがき

何度も言うようだが、**TX**延伸は単なる鉄道の延長ではない。それは常磐線とTXを繋ぐことで、
茨城県、ひいては首都圏の交通インフラをより強固にし、未来への可能性を広げる挑戦である。
その時を心待ちにしている。